

豪州の政策金利引き下げについて

ポイント① 政策金利を1.50%に引き下げ

8月2日、豪州準備銀行（中央銀行）は金融政策決定会合において、政策金利であるオフィシャル・キャッシュレートを0.25%引き下げ、1.50%とすることを決定しました。市場参加者の大半は今回の利下げを予想していました。利下げは5月の金融政策決定会合以来、3会合ぶりとなります。

ポイント② 引き続き弱含むインフレ率

今回の決定の背景には、引き続き弱含むインフレ率があります。豪州のインフレ率は7四半期連続で同中銀のインフレ目標(2-3%)を下回り、およそ18年ぶりの低水準での推移となっています。7月27日に発表された4-6月期のインフレ率は1.0%と前期までの水準からさらに低下しました。

前回7月5日の金融政策決定会合議事録では、「今後1か月の間に利用可能となるインフレ圧力、労働市場、住宅市場に関するさらなる情報により、経済成長およびインフレ予想を見直し、適切な場合には政策スタンスを調整する余地が生じるだろう」としており、4-6月期のインフレ率発表を受けて、同中銀が利下げに踏み切るとの見方が市場では強まっていました。

同中銀は今回の金融政策決定に関する声明においても、足元のインフレ率が極めて低い水準に留まっていることに改めて触れ、「労働コストの伸びが非常に低く、世界的にコスト上昇圧力が極めて弱い状況の下では、現在の低インフレが当面継続するだろう」としています。

また、声明では過熱が懸念されていた住宅市場についても、「利下げがリスクを悪化させる可能性は低減した」として、今回の決定の背景として言及しました。

ポイント③ 豪ドルはやや下落

利下げ決定を受けた8月2日14:00(日本時間)頃の豪ドルレートは、対米ドルで前日比0.7%程度、対円で同0.5%程度の豪ドル安となりました。

重要
イベント

8月18日	失業率・雇用者数変化（7月）
8月25日	民間資本支出（4-6月期）
9月6日	金融政策発表

図1：政策金利の推移

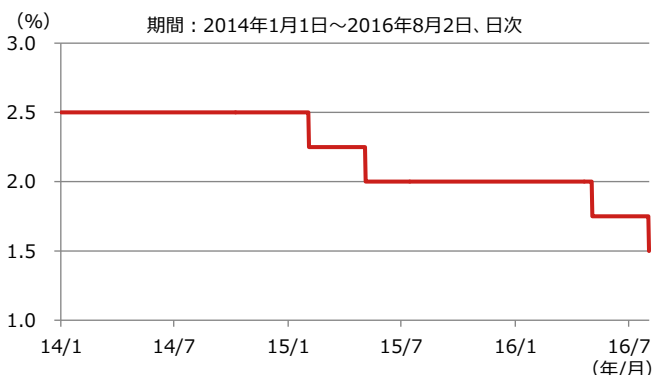


図2：消費者物価指数（前年同期比）の推移

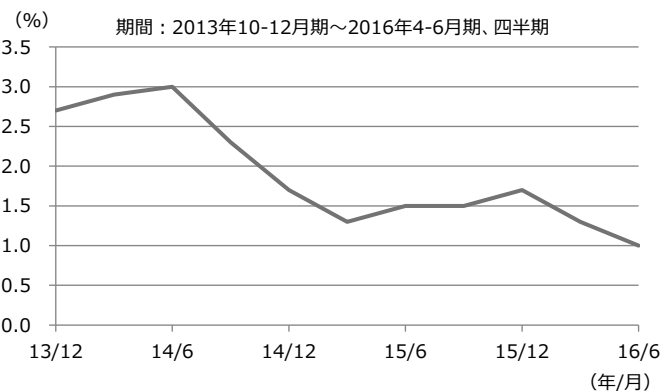


図3：為替レートの推移



(注) 8月2日は日本時間14:00頃の為替レート。

(出所) ブルームバーグデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。